

Voice 職員の声



業務部門 研究員
小林 邦彦さん
Kobayashi Kunihiko

〔持っている資格〕
エコ検定、簿記2級
〔得意な分野〕
生物多様性、農業開発
〔好きな国や地域〕
タイ、アジア

Q この業界の魅力は？

A さまざまなアクターと
同じ目標に向かうこと

政策を策定し、その推進のために働く行政関係者、研究者、技術専門家、民間企業やNGOで活動するボランティアの方々など、それぞれの知見と技術を注ぎ、行動しながら、例えば気候変動で危機に直面する人々を助ける。このように、一つの目的に向かう、協働の“土壌”が好きです。

Q この業界を選んだきっかけは？

A ライフワークを決定づけた
「名古屋議定書」

2010年10月、名古屋で開催された生物多様性条約締結国会議で採択された「名古屋議定書」から、各国の法制度整備における課題やその重要性に気づかれました。これに対して自分も何か貢献できるのではないかと考えるようになり、ライフワークとなるトピックに出会えたと思います。

Q 仕事の内容は？

A 日本の「国益」を意識し
国際的な条約交渉を支援

気候変動と生物多様性の二つを軸に、仕事を続けています。専門とする生物多様性分野では、環境省や農林水産省などと連携して、国際条約に関わる交渉官として活動しています。日本の“国益”を踏まえ、交渉内容に何を打ち込んでいくか。神経がすり減りますが、大きなやりがいを感じています。

Q この組織の魅力は？

A 政策策定から実施まで
一貫して取り組める

有意義な政策を策定しても実行につながらなければ、それはただのペーパーにすぎません。政策策定から必要な資金設計・動員、そしてプロジェクト実施まで、OECCでは一貫して対応しています。それができる多様なバックグラウンドを持った人が集まっているところがおもしろいと感じています。

Q 学生のときに
やっておくべきことは？

A 一次情報にあたり
事実を確かめる

現代は情報が氾濫しており、スマホやパソコンで誰でも簡単にさまざまな情報にアクセスできます。だからこそ、若い人には労を惜しまず、一次情報に当たってほしいと思います。自分で事実を確認し、解釈できる能力をつけておくことが大切です。実際に現場にも行ってみましょう。



COP28(国連気候変動枠組条約第28回締結国会議)のサイドイベント後、企業による気候変動対策の透明性向上の取り組みを共に推進するOECCの仲間と

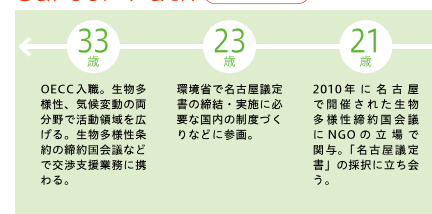
Info 組織情報

設立	1990年3月
職員	約50人
本部	〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-3-1 幸ビル3F
Tel	03-6811-2500
Mail	soumu@oecc.or.jp

採用ページはこちら！



Career Path キャリアパス



一般社団法人 海外環境協力センター



環境省主催日本・フィリピン環境ウィークにおいて透明性向上に関するセミナーに登壇

環境政策の策定から実装まで一貫通貫で伴走型支援

海外環境協力センター(OECC)は1990年の設立以来、環境開発協力に関する調査・研究、政策・制度立案支援など、国際環境協力分野における日本の中核的組織として活動に展開。特に近年はシンクタンクやコンサルティング機能に加え、官民の中立的な立場から、日本政府や外国政府、国際機関、自治体、民間企業など立場も文化も異なる多様なステークホルダーの間に立ち、信頼関係を築きながら橋渡しを行う。資金調達を含め、上流の政策策定から具体的な案件形成・実施まで一貫通貫の「伴走型支援」を行い、制度や資金、技術をつなぎながら、現場での変化を実感できるダイナミックな国際協力を実践している。

注目される資金調達の能力

OECCは30年以上にわたり、地道に積み上げてきた経験とノウハウ、さらに国内外のネットワークを最大限に活用し、途上国の環境課題の改善に努め、よりよい社会の創出を目指して事業を展開している。重点を置くのは「気候変動」「環境管理・循環経済」「生物多様性・環境課題解決を分野横断的に取り組む」「統合的アプローチ」の4分野。相手国の課題とニーズを的確に分析・理解し、政策の立案・策定から現場におけるプロジェクト実施まで一貫した協力特徴だ。

具体的には初期のニーズ調査から

案件の発掘・形成、必要となる資金調達、実施設計、商流形成、革新的な技術の実証・実装、事業実施まで、各段階で専門的な知見とノウハウを注ぎ、事業化まで伴走支援する。特に国内外のさまざまな資金スキームをプロジェクトの内容・目的に応じてカスタマイズできることは同センターの大きな強みとなっている。

地球環境問題への対応は待ったなしの状況だが、対策に必要な資金調達や投資案件の整備には途上国の現状や国際スキーム要件に適した知恵と工夫が必要。このような状況でOECCの多様なソースからの資金計画設計と調達能力は注目される。

また国連気候変動枠組条約や生物多様性条約などでの国際交渉支援やパシフィック・ディベロップメント・イニシアティブや遺伝資源へのアクセスと利益の配分に関する交渉支援、も同組織の大きな役割だ。日本政府代表団に職員を派遣し、日本の国益を踏まえ、時にリードネゴシエーターを務めている。

他者から学び、成長できる職場

職場には多様な経歴を持つ人材が集い、それぞれの視点から協働できる環境も魅力の一つ。自分の専門に閉じず、他者から学び、成長したい人には最高のフィールドといえる。

現在募集をしている「環境ビジネス・技術・知見の海外展開」に、共に汗を流し取り組める人を歓迎する。